

■本書の特徴と使い方

1. 「簿記の基本だけど、すぐには覚えづらいこと」を、いつでも確認できるようにしました。

「財務諸表のひな形」を左側ページの上部に掲載しています。

左側のページには、左を意味する「借方」、右側のページには、右を意味する「貸方」を記載しています。

176 借方
(第8章-4)

貸方 177
(第8章-5)

仕訳例では、5要素とその増減が一目でわかるようにしています。

仕訳例4-2 掛け代金の回収時 【仕訳例4-1の続き】

後日、上記掛け代金100円を現金で受け取った。

(借) 現 金	金 [資産+]	100	(貸) 売 掛 金	金 [資産-]	100
---------	---------	-----	-----------	---------	-----

2. 本文にはわかりやすさの工夫が多く入っています。

これから学習する内容の概略を把握できるようになっています。

第1節 商品売上の基本的な取引

会社の主たる事業である、商品売上についてみていきます。重要な取引であるからこそ、論点が様々あるのですが、まず第1節においては、商品売上の基本的な取引について学習していきます。

1 掛け取引 (代金の後払い)

✓CHECK

勘定科目 売掛金 (資産 丁) : 商品を掛け売上したことによって生じた、代金を回収する権利
買掛金 (負債 丁) : 商品を掛け仕入したことによって生じた、代金を支払う義務

用語 掛け取引 : 代金を後払いで行う取引

文章によるわかりやすい説明だけでなく、図解を多く盛り込んでいます。

(1) 取引の概要

商品売買取引を迅速に行うため、先に商品の受け渡しを行い、後日、代金決済をすることがあります。このように、代金を後払いで行う取引のことを「掛け取引」といいます。

(2) 売上側の会計処理

① 掛け売上時

商品を掛けて売った場合、「掛け代金を回収する権利」が生じます。この権利は「売掛金」勘定 (資産) で表します。よって、「売掛金」勘定の増加として処理します。

仕訳例4-2 掛け代金の回収時 【仕訳例4-1の続き】

後日、上記掛け代金100円を現金で受け取った。

(借) 現 金	金 [資産+]	100	(貸) 売 掛 金	金 [資産-]	100
---------	---------	-----	-----------	---------	-----

※1 商品の売上代金を回収する権利が減少するため、「売掛金」勘定の減少

ひと言アドバイス

貸方を「売上」にしてしまう間違いがよくあるよ。「売上」は仕訳例4-1の時点で計上しているため、仕訳例4-2の時点では計上しない点に気をつけよう。

★補足

商品売買と現金収支のタイミング

【仕訳例4-1】をみてください。この時点ではまだ代金を受け取っていませんが、「売上」の発生としています。簿記では、「商品を引き渡した時点」が商品の売れたタイミングとして会計処理をするのです。「代金を受け取った時点」が売上時点ではありませんので注意してください。同様に、商品を仕入れたタイミングは「商品を受け取った時点」であり、代金の支払時点ではありません。

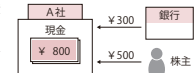
ひと言アドバイスには、問題を解くうえでの注意点や、理解の手助けとなるワンポイントなどを書きました。

発展的な内容や、理解を深めるための内容は、補足に書かれています。本文と合わせて読むようにしましょう。

Case Study 貸借対照表と財政状態

取引1 ▶ 会社の設立と資金の借入れをした場合の貸借対照表

- ・当社 (A社) は、株主から現金500円の出資を受け設立された。
- ・設立と同時に、銀行から現金300円の借入れを行った。



会社設立直後の状況を貸借対照表で表現すると右のようになります。

この貸借対照表について、手順を踏んで説明します。

貸借対照表	
資産	負債
現金 800	借入金 300
	資本
	資本金 500

1. 大きなTの字を書き、借方と貸方に分ける

大きなTの字を書き、中心線を境にして借方 (左) と貸方 (右) に分けます (①)。このTの字が貸借対照表の原型です。借方は資金の運用形態 (なにをもってあるか)、貸方は資金の調達源泉 (どのように資金を調達したか) を表します。

今回は、合計800円を調達して、その800円を持っているので、左右に800円と記入します (②)。

貸借対照表	
(借方) 資金の 運用形態	(貸方) 資金の 調達源泉

貸借対照表	
(もっている金額)	(調達した金額)
800	800

2. 貸方 (資金の調達源泉) を2つに分ける

資金の調達源泉は返済義務の有無により区別します。

貸方を2つに分け、上側に返済義務のある金額を記入し、下側に返済義務のない金額を記入します。今回は、銀行から借入れた300円は返済義務があるので上に書き、株主から出資を受けた500円は返済義務がないために書きます (③)。

貸借対照表	
800	(返済義務あり) 300
	(返済義務なし) 500

COLUMN 貸借対照表はバランス・シート

貸借対照表は、英語でバランス・シート (Balance Sheet) といいます。ここでのバランスは、天秤という意味です。貸借対照表の借方と貸方の合計額が一致する点が、まるで「左右が釣り合った天秤」のようにみえるため、このような名称となっています。

貸借対照表	
資産	負債
	資本
借方合計	貸方合計

検定試験合格のためには必ずしも必要ではないけれど、知っておくとよいことはCOLUMNに書きました。ぜひ、こちらにも目を通してほしいと思います。

3. もちろん、問題を解く力も身につけられるようになっていきます。

各論点ごとに例題を載せています。例題が解けるようになることを目標に、学習を進めましょう。

● ■ 例題 4-12

次の取引について、仕訳を示しなさい。

- (1) 当期に得意先 J 社から受け取った約束手形 6,900 円が、J 社の倒産により全額貸し倒れた。
- (2) 前期に貸倒処理した W 社に対する売掛金 4,000 円を現金で回収した。

■ 解答欄

日付	借方科目	金額	貸方科目	金額
(1)				
(2)				

各論点の終わりに、ポイントが書いてあるので、効率的に学習することができます。

POINT

1. 売上債権の貸倒れが生じた場合は、「貸倒損失」勘定（費用）の発生とする。
2. 前期以前に貸倒処理した債権を当期に回収した場合は、「償却債権取立益」勘定（収益）の発生とする。

4. 日商簿記検定3級で一番難しい決算（第12章）は、より詳しい説明にしました。

第2節 減価償却

当期首に建物を3,000円で取得し1年間使用した。——この場合、決算整理をしないと建物の金額が取得時の金額のままになってしまいます。建物は1年間の使用により劣化するため、価値の減少を反映させるために決算整理を行います。

当期の価値の減少を反映させる。

決算整理前残高試算表		貸借対照表	
3,000 取得原価	建 物	建物	2,000 当期末の価値

 CHECK

勘定科目 減価償却累計額（資産の控除項目 一十）：減価償却による固定資産の減少額を意味する評価勘定
減価償却費（費用 十二）：固定資産の当期の価値減少額を表す費用

$$\frac{\partial}{\partial t} \left(\frac{1}{2} \rho \frac{u^2}{r} \right) = \frac{1}{2} \rho \frac{u^2}{r} \left(\frac{\partial}{\partial t} + u \frac{\partial}{\partial r} \right) = \frac{1}{2} \rho \frac{u^2}{r} \left(\frac{\partial}{\partial t} + u \frac{\partial}{\partial r} \right) = \frac{1}{2} \rho \frac{u^2}{r} \left(\frac{\partial}{\partial t} + u \frac{\partial}{\partial r} \right)$$

用語 耐用年数：固定資産の利用可能年数

残存価額：耐用年数到来時の見積売却価額

帳簿価額：取得原価から減価償却累計額を控除した金額

まとめ

借方残高	勘定科目	貸方残高
3,000	建 物	
	減価償却累計額	1,000

・建物 は前期首に取得したもので、減価償却は、耐用年数3年、残存価額ゼロ、定額法により行っている。

- ・建物は前期首に取得したものであり、減価償却は、耐用年数3年、残存価額ゼロ、定額法により行っている。

〈決算整理仕訳〉

(借) 減価償却費	[費用+]	1,000	(貸) 減価償却累計額	[資産控除+]	1,000
$\frac{(\text{取得原価} - \text{残存価額}) \div \text{耐用年数}}{3,000 - 0 \div 3\text{年}}$					

《財務諸表》

損益計算書		貸借対照表	
減価償却費 1,000		建物 3,000	増価償却 1,000
当期の減価償却費		減価償却累計額 △2,000	
		合計 1,000	
		当期未済の減価償却費の合計	

復習がしやすいよう、その
論点のまとめを載せていま
す。

2 減価償却の具体的処理①（当期首に取得した場合）

- ・当期首に建物を現金3,000円で取得した。
- ・減価償却は、耐用年数3年、残存価額ゼロ、定額法により行う。

〈決算整理の全体像〉

期首 決算日

建物取得 3,000 減価償却費 1,000 帳簿価額 2,000

期中手続書

建 物 3,000 / 現 金 3,000

↓

決算整理手続書

Step1 決算整理前残高試算表

建物	減価償却累計額	減価償却費
取得原価 3,000		

決算整理前残高試算表	
借 方	貸 方
3,000 建物 取得原価	
	減価償却累計額
	1,000 減価償却費
3,000 現金 取得原価	

→

Step2 決算整理仕訳

減価償却費 1,000 / 減価償却累計額 1,000

↓

Step3 決算整理後残高試算表

建物	減価償却累計額	減価償却費
取得原価 3,000	減価償却 1,000	減価償却 1,000

決算整理後残高試算表	
借 方	貸 方
3,000 建物 取得原価	
	減価償却累計額 1,000
	減価償却費 1,000
1,000 現金 取得原価	

※ 勘定科目の
減価償却累計額
は、貸方記入

決算の全体像がイメージできるようにしています。

もっと深く知る

貸倒引当金を設定するのはなぜ？

貸倒見積高は当期に貸倒れたわけではないにも関わらず、なぜ当期の費用とするのでしょうか？

- ・ X 1 期に10,000円の掛け売上を行った。X 1 期末において売掛金は未回収である。
- ・ X 2 期に、上記売掛金のうち9,800円を回収し、200円が貸倒れた。

この場合、最終的に現金回収できた金額は9,800円なので、利益は9,800円となるべきです。では、これをもとに、貸倒引当金を設定しない場合の損益計算書をみてみましょう。

〈貸倒引当金を設定しない場合の損益計算書〉

	X 1期	X 2期	合計
売上	10,000	0	10,000
貸倒損失	0	200	200
利益	10,000	△200	9,800

X1期とX2期の利益合計はちゃんと9,800円になっています。しかし、X1期だけに注目してみると、X1期の利益は10,000円となっており、利益が200円過大計上になってしまっています。このように、貸倒引当金を設定しないと利益の過大計上となる点が問題なのです。

この問題を解決するのが、貸倒引当金の設定です。X1期の決算整理仕訳でX2期の貸倒損失を先に計上することで、X1期の利益が過大計上になるのを防ぐことができます。

〈貸倒引当金を設定した場合の損益計算書〉

	X 1 期	X 2 期	合計
売 上	10,000	0	10,000
貸倒引当金繰入	200	0	200
利 益	9,800	0	9,800

決算の奥深さを知ってもらうために、「もっと深く知る」を用意しました。内容としては、日商簿記検定3級を超えていますが、より上位の資格を目指す方はぜひ読んでみて下さい。

■ 日商簿記検定3級について

受験資格	なし
申込期日	受験日の約2ヶ月前から約1ヶ月間（受験希望地の商工会議所によって、申込期日や申込方法は異なる）
受験日	6月中旬（第2日曜日）、11月下旬（第3日曜日）、2月下旬（第4日曜日）
受験料	2,850円（税込み）
試験科目	商業簿記
試験時間	120分（9時開始）
合格基準	70%以上
筆記用具について	試験では、HBまたはBの黒鉛筆、シャープペン、消しゴムが使用可（ラインマーカー、色鉛筆、定規等は使用不可）
計算器具について	電卓、そろばんは使用可（ただし、電卓は、計算機能(四則演算)のみのものに限り、例えば、次の機能があるものは持ち込み不可。印刷（出力）機能、メロディー（音の出る）機能、プログラム機能（例：関数電卓等の多機能な電卓、売価計算・原価計算等の公式の記憶機能がある電卓）、辞書機能（文字入力を含む）ただし、次のような機能は、プログラム機能に該当しないものとして、試験会場での使用を可とします。日数計算、時間計算、換算、税計算、検算（音の出ないものに限る）
計算用紙について	試験では計算用紙（A4サイズ）が1枚配布される
合格率	50%前後であることが多い

※本書の刊行時のデータです。最新の情報は商工会議所のWEBサイトをご確認ください。（<https://www.kentei.ne.jp/bookkeeping>）

■ 書籍の訂正について

発行後に判明した誤植等の訂正については、下記のURLに記載しております。



cpa-learning.com/boki_teisei

目 次

序章 簿記とは

簿記とは	2
1 簿記で勉強すること（簿記の目的）	2
2 簿記は帳簿記入の略	3
3 簿記の主語は当社	3
4 借方と貸方	3
5 簿記の用語	4

第1章 財務諸表（貸借対照表と損益計算書）

第1節 財務諸表の概要	6
1 貸借対照表と財政状態、損益計算書と経営成績	6
2 簿記の5要素	7
3 勘定科目	7
第2節 貸借対照表	9
1 貸借対照表と財政状態	9
2 貸借対照表の3要素	16
3 貸借対照表の変化と会計期間	23
4 貸借対照表作成の基本的な流れ	28
5 貸借対照表による利益計算	38
第3節 損益計算書	39
1 損益計算書が理解できる具体例	39
2 損益計算書と経営成績を理解しよう	41
3 損益計算書の2要素	42
4 貸借対照表と損益計算書の関係	43

第2章 簿記の全体像

第1節 全体像と帳簿	50
1 財務諸表を作成するまでの一連の流れ	50
2 帳簿とは	50
第2節 期中手続き	51
1 取引	51
2 仕訳	51
3 勘定	52
第3節 期末の手続き	57
1 試算表	57
2 財務諸表の作成	65

第3章 基本的な取引と勘定科目

第1節 基本的な取引（現金が増減する取引）	68
1 会社の設立（出資）	68
2 資金の借り入れ	69
3 資金の貸し付け	71
4 固定資産の取得	73
5 給料や諸経費の支払い	74
6 商品売買（現金取引）	76
第2節 当座預金と小切手	78
1 当座預金	78
2 小切手の取引①（小切手の振り出し）	80
3 小切手の取引②（小切手の受け取り）	83

第4章 商品売買

第1節 商品売買の基本的な取引	92
1 掛け取引（代金の後払い）	92
2 手付金（代金の前払い）	98
3 返品	102

4 商品売買に伴う諸経費（当社負担）	105
5 商品売買に伴う諸経費（先方負担）	108

第2節 商品売買から生じる各債権債務	112
1 商品券	112
2 クレジット売掛金	114
3 手形（約束手形）	117
4 電子記録による債権・債務（でんさい）	123
第3節 貸倒れ	126
1 債権の貸倒れ	126
2 貸倒れ処理した債権を回収した場合	127
第4節 商品売買の記帳方法（三分法と分記法）	129
1 記帳方法と三分法	129
2 分記法	130

第5章 現金預金

第1節 現金	134
1 現金とは	134
2 現金過不足	136
第2節 預金	139
1 小切手の応用的な取引①（ただちに当座預金に入金した場合）	139
2 小切手の応用的な取引②（自己振出小切手）	139
3 預金に関するその他の論点	142
第3節 小口現金	146
1 小口現金	146

第6章 固定資産に関連した取引

第1節 固定資産の賃貸借	150
1 家賃や地代の支払い	150
2 敷金や仲介手数料の支払い	152

第2節 固定資産の取得と売却	154
1 固定資産を取得した場合（付随費用の処理）	154
2 固定資産（土地）を売却した場合	156
3 固定資産の売買を後払いで行った場合	159
第3節 固定資産の修理	162
1 収益的支出と資本的支出	162

第7章 資金の貸貸借

第1節 資金の貸し付け・借り入れ	166
1 利息の受け払い	166
2 役員に対する貸付金など	169
3 約束手形による資金の貸し付け・借り入れ	170

第8章 給料に関連した取引

第1節 立替金・預り金	174
1 一時的な立て替えと預かり	174
第2節 給料の支払い（源泉徴収）	177
1 所得税と源泉徴収制度	177
2 社会保険料	179

第9章 その他の取引

第1節 租税公課およびその他の費用	184
1 固定資産税や印紙税を支払った場合	184
2 その他の費用	186
第2節 仮払金・仮受金	187
1 金額や内容が未確定の支出	187
2 内容不明の入金	189
第3節 訂正仕訳	191
1 訂正仕訳	191

第10章 帳簿と伝票

第1節 主要簿	196
1 主要簿とは	196
第2節 補助簿	199
1 補助簿とは	199
2 補助記入帳	199
3 補助元帳	204
第3節 伝票	217
1 伝票とは	217
2 伝票の起票	218
3 総勘定元帳への転記	223
4 売掛金元帳、買掛金元帳への転記	226

第11章 決算Ⅰ（全体像・決算振替仕訳）

第1節 決算の概要	232
1 決算とは	232
2 決算手続きの流れ	233
第2節 帳簿の締め切り（決算振替仕訳）	235
1 帳簿の締め切りの概要	235
2 収益・費用の勘定の具体的な締め切り方	237
3 資産・負債・資本勘定の具体的な締め切り方	244

第12章 決算Ⅱ（総論、減価償却、貸倒引当金、売上原価、経過勘定）

第1節 決算整理総論	250
1 決算整理の概要	250
2 決算整理を勉強する際のポイント	251
第2節 減価償却	252
1 減価償却を理解するための前提知識	253
2 減価償却の具体的処理①（当期首に取得した場合）	255

3	減価償却の具体的処理②（取得した翌期以降の決算整理）	262
4	減価償却をしている固定資産を売却した場合（期中仕訳）	265
第3節 貸倒引当金の設定		268
1	貸倒引当金の設定を理解するための前提知識	269
2	貸倒引当金の具体的処理①	270
3	貸倒時の処理（期中仕訳）	274
4	貸倒引当金の具体的処理②（差額補充法）	278
第4節 売上原価の算定（商品の決算整理）		283
1	売上原価の算定を理解するための前提知識	284
2	商品の決算の具体的処理	285
3	売上原価を「売上原価」勘定で算定する方法	293
第5節 経過勘定		294
1	経過勘定を理解するための前提知識	295
2	前払い・前受けの具体的処理①（前払費用）	297
3	前払い・前受けの具体的処理②（前受収益）	301
4	未収・未払いの具体的処理①（未払費用）	305
5	未収・未払いの具体的処理②（未収収益）	309
6	財務諸表	313

第13章 決算Ⅲ（現金過不足、貯蔵品、当座借越）

第1節 現金過不足の整理		316
1	現金過不足の整理の総論	316
2	期中で現金過不足が生じ、その原因が決算日まで判明しなかった場合	316
3	決算日に現金過不足が生じ、その原因が判明しなかった場合	321
第2節 貯蔵品の整理		324
1	貯蔵品の整理の総論	324
2	貯蔵品の手続き	325
第3節 当座借越の整理		329
1	当座借越の整理の総論	329
2	当座借越の手続き	329

第14章 決算Ⅳ（精算表、月次決算）

第1節 精算表の作成		334
1	精算表とは	334
2	精算表の作成方法	335
第2節 月次決算		342
1	月次決算とは	342
2	月次決算における減価償却	342

第15章 株式会社会計・税金

第1節 株式会社		348
1	株式会社について	348
2	増資	349
3	利益剰余金の配当および処分	349
第2節 税金（法人税、住民税及び事業税・消費税）		355
1	法人税、住民税及び事業税	355
2	消費税	359

第16章 証ひょう、試算表

第1節 証ひょうの問題		364
1	証ひょうとは	364
2	証ひょうの種類と仕訳例	364
第2節 試算表の問題		369
1	試算表作成の問題	369
2	試算表作成問題の出題形式	369

索引 380

序章

簿記とは



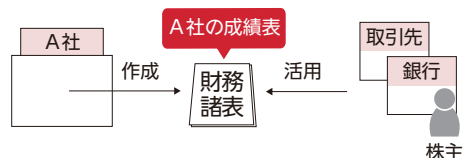
今日から簿記の学習が始まります。ところで、簿記ってそもそも何なのでしょう。まず始めに、簿記の簡単なイメージをつかんでおきましょう。

1 簿記で勉強すること（簿記の目的）

簿記では、「財務諸表を作成するまでの一連の流れ」を勉強します。財務諸表とは、簡単に言えば**会社の成績表**です。財務諸表には、「その会社がいくらお金をもっている、いくら借金している」ということや、「いくら儲かったのか」ということが書いてあり、多くの人（利害関係者といいます）が活用しています。

●利害関係者と活用例

利害関係者	財務諸表の活用例
投資家（株主）	その会社にお金を出資するかどうかの判断材料にする。
銀行	その会社にお金を貸すかどうかの判断材料にする。
取引先	その会社と取引をしていいかどうかの判断材料にする。



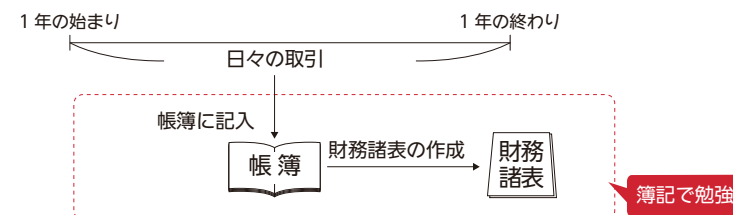
「財務諸表があるからこそ、世の中の経済が上手く回っている」と言われるくらい、財務諸表は重要な書類です★。簿記では、そんな重要な書類である**財務諸表の作成方法**について学習します。

★ちなみに、実際の財務諸表はEDINET（<https://disclosure.edinet-fsa.go.jp/>）や、その会社のWEBサイトから確認ができます。

2 簿記は帳簿記入の略

財務諸表を作成するためには、「会社が行う日々の取引を、帳簿★に記入する」ことが必要です。そのため、簿記では、帳簿の記入方法について勉強します。簿記という名称は、「**帳簿記入**」の略語とされています。

★帳簿は、会社の取引を記録するための「ノート」というイメージです。



3 簿記の主語は当社

簿記では、「当社は商品を仕入れた」、「当社は商品を販売した」というように、主語が**当社**（自分の会社のこと）になります。そのため、簿記を勉強する際は、会社目線で物事を考えていくことが大事になります。

4 借方と貸方

簿記の大きな特徴として、「**左右に分ける**」という点が挙げられます。例えば、帳簿に記入する際は左右に分けて行います。また、財務諸表は左右に分けられています。このように、左右に分けるというのは、簿記の根幹といえるくらい非常に重要な点なのです。

このとき、簿記では左側のことを「**借方**」、右側のことを「**貸方**」といいます。この言葉は、簿記を学習する上で覚えるようにして下さい。聞き慣れない言葉なので、覚えづらそうに思えますが、覚え方は簡単です。下記のように「借」と「貸」をひらがなで書けば、「**かり**は左を指していて、**かし**は右を指している」ということが一目瞭然だからです★。なお、借方を（借）、貸方を（貸）と表現することもあります。また、「**貸借**」は左右を意味します。

★「借」金と左側は関係ある」と考えると、非常に混乱することになります。借方・貸方という言葉に特に意味はないと思って、単に覚えるようにしましょう。

かり	かし
借方は左	貸方は右



5 簿記の用語

借方・貸方というほどではなくても、簿記では、あまり日常では使われない用語が多く登場します。学習する過程で、簿記の用語に慣れるようにしましょう。

●簿記でよく出てくる用語の一例

用語	意味
出資を受ける	株主から元手 ^{もとて} となる資金をもらうこと
借り入れる／貸し付ける	銀行からお金を借りること／お金を貸すこと
得意先／仕入先	商品の販売先（お客さん）／商品の購入先
掛けにする	代金を後払いにすること
売り上げる	商品を販売すること
当社	自分の会社（自社）のこと
同社	問題文で直前に出てきた会社のこと
取得する	購入すること
X●年○月期	X●年○月に終わる1年間のこと（X2年3月期は、X1年4月～X2年3月の1年間を意味する）
X●年度	X●年から始まる1年間のこと（X2年度は、X2年から始まる1年間を意味する）
△	マイナスのこと（△100は、－100を意味する）
@	単価のこと（@100円は、1つ当たり100円を意味する）

第1章

財務諸表
（貸借対照表と損益計算書）



第1節 財務諸表の概要

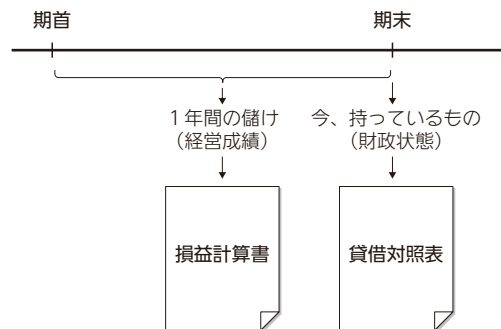
さあ、簿記の学習がここからスタートします。最初に学習するのは、序章でも登場した財務諸表。簿記の目的である財務諸表って一体どういうものなのでしょうか？第1節で大まかに説明したうえで、第2節以降で詳細を説明します。

1 貸借対照表と財政状態、損益計算書と経営成績

会社は1年に1回、「財政状態」と「経営成績」という2つの成績を報告するために、2つの財務諸表（会社の成績表）を作成します。2つの財務諸表にはそれぞれ名称があり、「貸借対照表」と「損益計算書」といいます。

会社は貸借対照表で財政状態を報告し、損益計算書で経営成績を報告します。財政状態と経営成績の意味はこれから詳しく学習していきますが、簡単に表現すると次のようになります。

財政状態	今、何をいくら持っているのか（財産の状態）
経営成績	この1年間で、何をどれだけ儲かったか（儲けの状況）



簿記の学習は、貸借対照表と損益計算書を理解するところから始まります。この第1章でしっかり理解していきましょう。

補足

英語表記と略語

財務諸表は、英語表記の頭文字をとって、略語で表現することが一般的です★。

財務諸表 : Financial Statements F/S (エフエス)

貸借対照表 : Balance Sheet B/S (ビーエス)

損益計算書 : Profit and Loss Statement ... P/L (ピーエル)

★実務では略語を用いることがよくあるため、最終的にはおさえるようにしましょう。

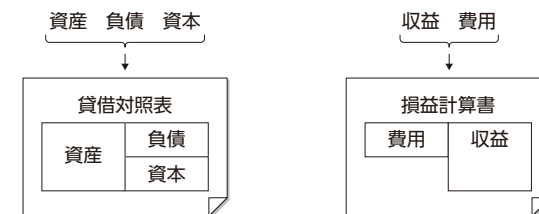
2 簿記の5要素

財政状態と経営成績を示すために、財務諸表は5つの要素に分けて作成するルールになっています。この5つの要素を「簿記の5要素」といい、具体的には次の5つをいいます。

資産	負債	資本	収益	費用
----	----	----	----	----

5要素のうち3要素（資産、負債、資本★）は貸借対照表で使用し、残りの2要素（収益、費用）は損益計算書で使用します。

★資本にのみ別名があり、純資産ともいいます。



3 勘定科目

例えば、現金を500円、土地を300円分持っている場合、貸借対照表には「現金 500円、土地 300円」と書きます。このように、財務諸表では名称と金額をセットにして表示します。この名称のことを「勘定科目」といい、勘定科目は簿記の5要素のいずれかに属します。学習を進めていく際は、「その勘定科目はどの要素に属するのか」をおさえることが重要です。

貸借対照表			
資産		負債	
現金	500	買掛金	100
土地	300	借入金	300
貸付金	200	資本	
		資本金	600

勘定科目と金額はセットで表示

勘定科目は5要素のいずれかに属する

●勘定科目の例（詳しくは後述）

簿記の5要素	勘定科目
資産	現金
	土地
	貸付金
負債	買掛金
	借入金
資本	資本金

補足

勘定科目と英単語の共通点

勘定科目は英語における英単語のようなイメージです。

・ 5要素と品詞

英単語の場合、playは動詞、sheは人称代名詞というように、英単語ごとに品詞が決まっています。勘定科目の場合も、現金は資産、借入金には負債というように、勘定科目ごとに5要素が決まっています。

・ 勘定科目名とスペル

英単語はそのスペルが決まっているように、勘定科目もその名称は決まっています。例えば、お金を意味する「現金」という勘定科目に、「お金」や「小銭とお札」といったような「現金」ではない勘定科目名を使用することはできません（ただし、複数の勘定科目名が許容されているものはあります）。

なお、勘定科目の数は英単語よりも少ないため、無理に覚えようとせずに、勉強していくなかで自然と覚えていくのがよいでしょう。勘定科目は日本語なので、英単語よりも直感的に意味がつかみやすいと思います。

POINT

1. 2種類の財務諸表と簿記の5要素

貸借対照表：資産、負債、資本の3要素を用いて財政状態を報告する。

損益計算書：収益、費用の2要素を用いて経営成績を報告する。

2. 財務諸表では勘定科目と金額をセットで表示する。

COLUMN 財務諸表は貸借対照表と損益計算書だけじゃない。

財務諸表は貸借対照表と損益計算書だけではありません。その他に、株主資本等変動計算書とキャッシュ・フロー計算書があります。

日商簿記検定では、2級で株主資本等変動計算書を、1級でキャッシュ・フロー計算書を学習することになります。

第2節 貸借対照表

財政状態を表す貸借対照表と、経営成績を表す損益計算書のうち、まずは貸借対照表から学習していきます。貸借対照表を理解することが損益計算書の理解につながりますので、きちんとマスターしましょう。

1 貸借対照表と財政状態

(1) 貸借対照表のひな形

下記の表が貸借対照表です。第2節の目標はこの表が読めるようになることです。

貸借対照表				貸借対照表			
A 社		X 1 年 3 月 31 日		(単位：円)			
現 金	700	借 入 金	300	簡略化→	資 産	負 債	
建 物	200	資 本 金	500		現金 700	借入金 300	
		繰越利益剰余金	100		建物 200	資本	
資 産 合 計	900	負債・資本合計	900			資本金 500	
						繰越利益剰余金 100	

(2) 貸借対照表のポイント

貸借対照表にはポイントが3つあります。

ポイント①	かりかた 借方に資産、かしかた 貸方には負債と資本（負債が上で、資本が下）
ポイント②	借方と貸方の合計額は一致する
ポイント③	いつ時点の財政状態なのかを記載する

貸借対照表				ポイント③ いつ時点の財政状態なのかを記載する			
A 社		X 1 年 3 月 31 日		(単位：円)			
現 金	700	借 入 金	300	ポイント① 借方は資産	資 産	負 債	
建 物	200	資 本 金	500		現金 700	借入金 300	
		繰越利益剰余金	100		建物 200	資本	
資 産 合 計	900	負債・資本合計	900			資本金 500	
						繰越利益剰余金 100	

ポイント② 借方と貸方の合計額は一致する



ひと言アドバイス

借方は左側、貸方は右側って意味だよ。詳しくは序章（3ページ）を確認してみよう。

ポイント①に「借方に資産、貸方には負債と資本」とありますが、この位置が3要素それぞれの定位置です。それぞれの定位置は非常に重要なので、しっかり覚えるようにしましょう。

ひと言アドバイス

貸借対照表の図を繰り返し書いて覚えるのがオススメ。ちなみに本書では、ページの左上でいつでも確認できるようになってるよ。

また、ポイント②の「借方と貸方の合計額は一致する」を計算式★にすると次のようになります。

★貸借対照表等式といいます。

$$\text{資産の金額} = \text{負債の金額} + \text{資本の金額}$$

1 ページ前の貸借対照表でいうと、「資産900＝負債300＋資本600」ですね。

(3) 財政状態とは

第1節では、「財政状態を簡単に言えば『いま、何をいくら持っているか』を示すこと」と説明しましたが、正確には、次の3要素を示すことをいいます。

資産の額	どのような資産がどれくらいあるか？
負債の額	どのような負債がどれくらいあるか？
資本の額	資本をどのように増やしたか？

これらの内容について、次のページから始まるCase Studyを使って具体的に説明していきます。

補足

出資と借り入れ

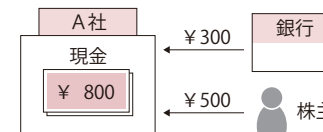
Case Studyに入る前に「出資」と「借り入れ」の違いを確認しておきましょう。

どちらも会社が資金を集める手段なのですが、「出資を受けた金額は返済する必要がない」、「借り入れた金額は返済する必要がある」という違いがあります。

Case Study 貸借対照表と財政状態

取引1 ▶ 会社の設立と資金の借り入れをした場合の貸借対照表

- ・当社（A社）は、株主から現金500円の出資を受け設立された。
- ・設立と同時に、銀行から現金300円の借り入れを行った。



会社設立直後の状況を貸借対照表で表現すると右のようになります。

この貸借対照表について、手順を踏んで説明します。

貸借対照表

資産		負債	
現金	800	借入金	300
		資本	500
		資本金	500

1. 大きなTの字を書き、借方と貸方に分ける

大きなTの字を書き、中心線を境にして借方（左）と貸方（右）に分けます（①）。このTの字が貸借対照表の原型です。借方は資金の運用形態（なにをもっているか）、貸方は資金の調達源泉（どのように資金を調達したか）を表します。

今回は、合計800円を調達して、その800円を持っているので、左右に800円と記入します（②）。

① 貸借対照表

（借方） 資金の 運用形態	（貸方） 資金の 調達源泉
---------------------	---------------------

② 貸借対照表

（もっている金額）	（調達した金額）
800	800

2. 貸方（資金の調達源泉）を2つに分ける

資金の調達源泉は返済義務の有無により区別します。貸方を2つに分け、上側に返済義務のある金額を記入し、下側に返済義務のない金額を記入します。今回は、銀行から借り入れた300円は返済義務があるので上に書き、株主から出資を受けた500円は返済義務がないため下に書きます（③）。

③ 貸借対照表

800	（返済義務あり） 300
	（返済義務なし） 500

3. 3要素を付す

貸借対照表の3つの欄にそれぞれ、資産、負債、資本という貸借対照表の3要素を付します（④）。

資産：会社が所有するもの

負債：調達額のうち、返済義務がある金額

資本：調達額のうち、返済義務がない金額

④ 貸借対照表

資産	800	負債	300
		資本	500